

**製品名: サイトケラチン 20 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09743**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	49kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KRT20
別名	KRT20; Keratin; type I cytoskeletal 20; Cytokeratin-20; CK-20; Keratin-20; K20; Protein IT
遺伝子 ID	54474.0
SwissProt ID	P35900
免疫原	抗血清はヒトケラチン 20 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 375-424

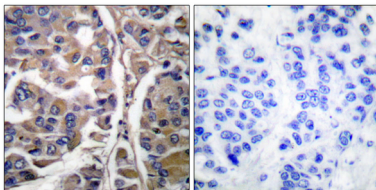
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質はケラチンファミリーのメンバーです。ケラチンは上皮細胞の構造的完全性を担う中間径フィラメントタンパク質であり、サイトケラチンと毛髪ケラチンに分類されます。I型サイトケラチンは、異型ケラチン鎖が対に

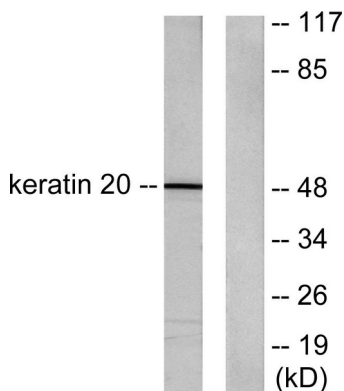
なって配列した酸性タンパク質で構成されています。このサイトケラチンは、成熟した腸管上皮細胞および杯細胞の主要な細胞タンパク質であり、胃および腸粘膜で特異的に発現しています。I型サイトケラチン遺伝子は、染色体 17q12-q21 の領域に密集しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月] 発生段階: 胎生 8 週目に、発達中の腸粘膜の個々の「変換された」単純上皮細胞で初めて検出されました。胎児期後期には、ほとんどの杯細胞と、一定数の絨毛腸管上皮細胞で合成が拡大されます。発達中の胃腸粘膜では、すべての腸管上皮細胞と杯細胞、および特定の「低分化」円柱細胞で発現していますが、神経内分泌細胞とパネート細胞では発現していません。機能:腸管上皮におけるケラチンフィラメントの組織化を維持する上で重要な役割を果たします。リン酸化されると、小腸でのムチンの分泌に関与します。その他:細胞骨格ケラチンとマイクロフィブリルケラチンには、I (酸性; 40-55 kDa) と II (中性から塩基性; 56-70 kDa) の 2 種類があります。PTM:Ser-13 の過剰リン酸化は、アポトーシスの初期段階で発生しますが、後期にはそれほど顕著ではなくなります。Ser-13 のリン酸化は、細胞損傷によるストレスへの反応としても増加します。PTM:アポトーシス中にカスパーゼによってタンパク質分解的に切断されます。切断は Asp-228 で起こる。類似性: 中間径フィラメントファミリーに属する。サブユニット: 2つのI型ケラチンと2つのII型ケラチンからなるヘテロ四量体。KRT8 と関連する。組織特異性: 主に腸管上皮に発現する。結腸粘膜の管腔細胞に発現する。また、角質化した口腔粘膜のメルケル細胞にも発現する。具体的には、歯肉粘膜のいくつかの歯肉突起の先端、口蓋粘膜の基底層、および舌粘膜の味蕾に発現する。

## 研究分野

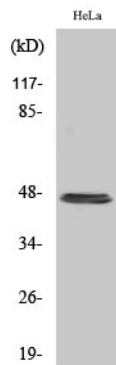
## 画像データ



ケラチン 20 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ケラチン 20 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈したサイトケラチン 20 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析